

放射線治療について知ろう

放射線療法は化学療法・手術療法と並んでがん治療の三本柱の一つです。がんの種類や進行具合によってこれらを組み合わせると闘います。

Q1 なぜ放射線を当てるとがんが消えるのですか？

がん細胞に放射線（主にX線）が当たると、細胞内のDNAが切断されます。すると細胞分裂が出来なくなります。がん細胞も生き物ですから、分裂・増殖できなければ徐々に寿命を迎え、数を減らしていきます。これが放射線治療の最も基本となる仕組みです。

Q2 放射線治療が適応となる病気は何ですか？

ほぼ全ての悪性腫瘍と一部の良性腫瘍が治療適応となります。前者では乳癌、肺癌、前立腺癌が、後者ではケロイドの患者数が多いです。ただ、一部の自己免疫疾患をお持ちの方、妊娠中の方は放射線治療が適応外となります。

Q3 治療の種類には何がありますか？

方法としては外照射（体の外か

Q4 治療の回数や費用はどれくらいですか？

する、血液疾患の移植治療前に全身へ照射を行い、移植の成功率を上げるといふものもあります。かなり多岐に渡りますので、放射線治療医と主治医がその患者様にとって適切な方法を模索し、提案をさせていただきます。

Q6 これから先の放射線治療について教えてください。

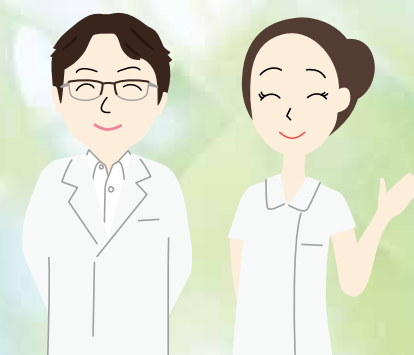
周囲に炎症反応が起こりますので、治療中はそれらが副作用となって徐々に表れてきます。例えばお腹の腫瘍の治療であれば、皮膚が日焼けのようになる（皮膚炎）、胃炎（吐き気）、腸炎（軟便、下痢）、膀胱炎（頻尿）などが起こります。症状が強い場合はそれらを抑える薬を使います。

治療回数は1〜39回と病気の種類や治療目的により様々です。基本的に外来通院で行います。最も基本的な治療の場合、1日1回15分程度で、週5回（月〜金）、治療台の上に寝ているだけで終わります。費用としては数万〜30万円程度（3割負担の場合）となります。

Q5 治療の副作用はありますか？

放射線が当たる場所およびその

ら腫瘍へ狙いを定める）、腔内照射（体腔内から器具を用いて腫瘍へ当てる、子宮頸癌など）、小線源療法（放射線を出す物質を腫瘍内へ留置する）、内用療法（放射線を出す物質をカプセルや注射、点滴で体内へ入れる）などがあります。また目的としては根治（完全に治す）、術前術後（手術の補助的役割、手術規模の縮小や再発率を下げる）、症状緩和（腫瘍に伴う痛み・出血・神経症状を軽減



今月の先生

岐阜市民病院 放射線治療全般

山口 尊弘

○役職

放射線科医長
放射線治療科医長
医療情報部医療情報室医長

○主な資格、認定

放射線治療専門医
放射線科専門医
日本医学放射線学会研修指導者

○卒業年、主な職歴

平成23年岐阜大学医学部
中部国際医療センター初期臨床研修医
岐阜大学医学部附属病院放射線科
高山赤十字病院放射線治療科

定期開催の「岐阜市民病院公開講座」の講演動画は、岐阜市公式YouTubeチャンネルで公開中！
山口 尊弘 医師 他による「放射線治療に関する動画」を只今公開しています。
詳しくは、岐阜市民病院ホームページをご確認ください。



岐阜市民病院
ホームページ